

令和6年度 第2回武蔵野市産業振興審議会 要録

【審議会概要】

日 時	令和7年3月6日（木）14：00～16：30
場 所	武蔵野市役所 812会議室
出席委員	福田敦会長、小田宏信副会長、高橋勇委員、坂井健司委員、田中栄子委員、平湯友子委員、田川良太委員
事務局	小池産業振興課長兼経済対策調整担当課長、庄司課長補佐、北村まちの魅力向上担当係長、助川主任、須藤主任
審議会次第	1 開会 2 議題 (1) 報告事項 ア 新規事業「まちとわたしとあなたプロジェクト」の実施状況について (2) 審議事項 ア 各施策の取り組み状況に関する評価及び次年度の方向性について (3) その他 令和7年度のスケジュールについて 3 閉会
配布資料	次第 資料1 まちとわたしとあなたプロジェクトの実施報告について 資料1-2 まちとわたしとあなたプロジェクトアンケート結果 資料2 第三期武蔵野市産業振興計画管理・評価シート 資料3 令和7年度スケジュール

【議事】

- 1 開会
 - ・配付資料の確認
- 2 議題
 - (1) 報告事項
 - ア 資料1、1-2について事務局より説明

会 長	この会で出来たつながりを更にどうつなげていくとポテンシャルが見えてくるのか、つながりにより見えてくるものがあると思う。 それぞれ参加している人の背景によってとらえ方は多様で良い。コミュニティをどうデザインしていくのか、そしてそれを産業振興課としてどうしていくのが大切である。 産業振興、商店街のあり方も従来とは大きく変わっている。従来のように商店街を買い物の場としてどうしていくのかだけにフォーカスするのではなく、全国的にローカルとコミュニティを軸に資源をつなぐことで商機を見出し、連続性がなくなってしまっている場でも自己実現していくためにはどうしたらよいかを考えていく流れがみられる。 このような振り返りをすることも大切である。次年度に向けてどうしていくのか、計画の実現に向けて、つながりの場の形成について今後も審議会として見守っていききたい。
高 橋 委 員	事業報告が抽象的でよくわからない。ワークショップでは具体的にどのような意見が出たのか。
田 中 委 員	この会で出た意見の報告の場はあるのか。
事 務 局	(意見や当日の様子などを投影して紹介) 振り返り会を実施する予定である。
田 中 委 員	振り返り会だけだとまちプロの参加者だけになってしまうので、もっとみんなに公開すると良い。
事 務 局	ホームページで公開することを検討したい。
高 橋 委 員	商連との意見交換もしたと聞いたが、それはどうだったのか。

坂井委員	意見交換というよりは、皆さんが見学してみてどのような感想を持ったのかという話をした。 全体として吉祥寺地区としては初回だったので、手探りだった印象。二度目の中央地区は進め方が慣れてきていた。それぞれの意見が今後どのように生かされていくのか。商連としては商店会の後継者と出会えるか。参加者同士の中でも新しい化学反応が起これば良いと思っている。まだ会の目的等がぼんやりとしているが、今後はもっとフォーカスすることで、参加者から出てくる内容が洗練されたものになると良い。
平湯委員	私は武蔵境地区のみ参加した。様々な意見を持った人たちが参加することでの高揚感が感じられた。大学生が自分の親世代の人と、外の空間で、親子とは違う目線の話ができる空間であったと思う。 グループ内では「60歳の壁」ということが様々言われていた。市報などで広報されている楽しそうなコミュニティが60歳以上しか参加できない。40-50代のやりたい人が参加できないのがもったいないと。 意見のグルーピングをするなど、結果の見せ方に工夫が欲しい。どのような意見が出たかをまとめた資料を今後も継続して追加いけると良い。意見が反映された実感が参加者に得られると良い。
田川委員	今年度は、つながる場の形成ってどうやるのだろうと手探りで進めてきた。成果まで昇華できるような取り組みだったかということそうではなかったが、今回の取り組みは事務局サイドとしては成功であったと感じている。つながりたいという市民、事業者のニーズがあり、つながるってこういうことであると認識ができた。次につなげていく良いきっかけとなった。 イベント時間が1時間半しかなく、その中で全く知らない人が成果を出すのはなかなか難しい。どうすれば人が来てくれるのか、つながりに来てくれるのかと今回はチャレンジすることができた。
坂井委員	テキスト情報だけであると空気感まで伝えることは難しい。次回はダイジェスト動画などで熱気、空気感も伝えられるようにして欲しい。

(2) 審議事項

ア 資料2について事務局より説明

高橋委員	商工会議所の関係項目が多いと実感した。私たちが目指している所と、市が目指している所は同じ。商工会議所がどこまで計画に沿って実行できているかといわれるとまだまだであると痛感している。アニメに関する記載については、一番力入れているところなので異論はない。しかし、例えば商工会議所でリスクリングを行っているかと言われるとできていない。 インバウンドに力を入れている。しかし、この審議会委員の中に観光機構がない。これからインバウンドについて考える中では観光機構が必要ではないか。 個々の取り組みについて今自分で出来ているか○×していったが、商工会議所としては半分くらいしか出来ていないように感じた。商工会議所の事務局としっかり共有していきたい。商工会議所の事業の中に盛り込まれていると管理がしやすいのだが。
会長	商工会議所や観光機構には事前に確認してもらっているのか。
事務局	取り組みの内容を決定する際、中間見直しについては共有している。
会長	商工会議所の方でもこの計画を適宜活用していただければ。
平湯委員	【施策7】 子どもは小さくてもひとりの「人」であり、まちの一員として大人が関わっていかうということである。表明権、子どもが参加する権利など。自分たちが意見を出したことが実際に形となって出てきたという経験ができると良い。できなかったという評価になっているが、子どもにどんなことをやりたいか聞いてそれを反映していくことが必要。 【施策6】 街の人たちが居場所づくりについてどう思っているかをヒアリングし、そこで出された意見が形になることが大切である。 【災害】

	災害時に一番怖いのが、火事である。特にハーモニカ横丁の火事対策について書かれていると良いと思った。
事務局	所管部署とも意見交換を行った。子どもの権利条例について知らない事業者も多い。ただ情報共有するのではなく、手法を検討すべきであると産業振興課としても思っている。次年度以降工夫が必要。 居場所については確かに記載が薄いと事務局としても認識している。今年度としては検討がすすめられなかった一方で、中高生世代が求める居場所が何であるか引き続き注視していきたい。 子ども向けイベントを産業振興課が行うのは違うと思うので、子どもたちが出した意見を産業振興課として実現できるよう連携していきたい。 ハーモニカ横丁について、魅力的な場所であるが、建物自体が既存不適格の状態となってしまう。あのままだと建て直すことができない。産業振興課でというよりは都市整備部門の方で検討すべき内容であるが、今回の意見は都市整備部門とも共有する。
坂井委員	20の施策が並列に記載されているが、優先順位をつけて行っていないといけな いと思う。 【施策7】 情報共有について、このようにやっていこうという情報共有ができなかった。全体として行政の中での縦割りがある中で、商店会と行政がお互いにどのようなことができるのかのキャッチボールすらできていない。 【施策3】 色々イベントはやっているが、せっかく良いコンテンツのイベントを実施しても集客できる施設、場所が吉祥寺、武蔵野市にない。1,000人呼べるイベントなのに300人しか入れる施設しかないのは非常にもったいない。 【施策8】 学生たちとの連携については、学校と地域の枠組みをしっかりと作るべき。例えば大学と商店会が連携協定を結ぶなどが必要。どのようなルールに則ってやっていると良いのか。商店会だけの意見、学生だけの意見ではない。 吉祥寺で3月11日に帰宅困難者訓練をやっているが、なぜ吉祥寺だけなのか、三鷹や境では何故実施しないのか（実施するべきと思う）。 【施策19】 消費者としての目線から。特殊詐欺の問題はもっと大きな問題である。もっと厳しく、危機感をもった記載にした方が良いのではないかな。
事務局	子ども向けの取り組み、連携についてそこまで力を入れられない商店会や事業者にも情報共有することができるのかなと思う。協定、ルールづくりについても記載ができればよい。 場所がない、スペースがない問題はその通りである。ご意見を記載内容に反映できるようにしたい。 消費者被害の被害状況については、武蔵野市は都内でも非常に高いと聞いている。そこも踏まえ、被害防止に努めていく。市としても次年度以降注力したい。確かに、審議会への報告内容が甘いので、記載内容について検討したい。
田中委員	アニメファンタジスタジャパンを昨年実施した。2日間で2千人以上のファンが来た。しかし、そのようなイベントを継続して実施しようとしても、ホールが取れないなど制約が多くある。商店会や市とどう結び付けられるのか。イベントを実施するのにどこまで話をすればいいのか。窓口がない。
事務局	おっしゃる通りである。市の方も産業振興計画を足掛かりとして一緒にやっていると良いと思っている。令和7年度はイベントに市も協力して、つながりあってできれば良いと考えている。大事なものは目に見える形でしっかりつながること。協定などもできると良い。産業振興計画だけでなく、第六期長期計画にも書かれていること。窓口は産業振興課と秘書広報課（シティプロモーション）になると思う。
田中委員	インバウンドのことも考えると、市とも一緒に連携したい。アニメファンタジスタジャパンも、子ども向けのアニメを書くイベントが人気だった。子どもの頃からクリエイティブに触れることは良い影響を与えると思う。
高橋委員	吉祥寺にはアニメというコンテンツがあり、武蔵野市がアニメの聖地になりうるのにうまく活用できていなかった。

	【施策5】 井戸をどうするかという問題。市民の生命を守るため、市民のいのち守るための文言も計画に書いてもらえると市民に興味を持ってもらえるのではないかな。
会 長	産業振興にとらわれない、全方位の視点も反映させてもらえると良い。
副 会 長	【施策14】 「産業振興課との連携をはかりつつ、」と記載があるが、環境政策課目線はおかしい。「環境政策課との連携をはかりつつ、」の記載が正しいと思う。 【施策6】 路線商業活性総合支援事業という文言がいきなり出てくるのは変ではないかな。路線商業という文言は今はそのような使い方はしていないのではないかな。 【施策12】 CO+LAB MUSASHINOのポータルサイトがあることを今知った。もっとアピールしてもよいのでは。ホームページの作り方も、見せ方ももっと工夫した方がよいのではないかな。せっかくワクワクする取り組みなのでもったいない。
事 務 局	CO+LAB MUSASHINOについては昨年の10月から走り出した。まだ追いつけていないのでPRの仕方については考えていきたい。
田 川 委 員	今日の議論を聞いて思ったこととしては、アニメノマンガノムサシノなど様々な取り組みを行っているが、バラバラに行われており、面的に出せていないことの弱さはある。もっと一体的に取り組んでいくべき。 これは会長、副会長に聞きたいのだが、観光事業など経済活動を行うことへの客観的な評価を行うにはどのような手法があるのか。我々はイベントを実施することはできるが、どのような評価手法が適切なのか分からないまま動いてしまっているとも考えている。参加者数や消費行動などが一般的だと思うが、そうではないやり方、手法があれば教えて欲しい。
会 長	よく言われるのは発地型の観光と、着地型の観光。今までは団体のお客様をその地域に連れてくること＝にぎわいをもたらすという話だった。しかし、今は着地型。来てもらうことで何を伝えたいのか、何が自分たちの資源なのかを考えてアプローチしていく。受け身の形だけだと食い荒らされていく。ブームに乗り遅れると疎外感を感じてしまう。地域全体の盛り上がり欠けてしまう。地域が主体的に何を観光客に伝えたいのかを考えていくことが大事。インバウンドだけでなく、市民なども魅力に感じられるような外の視点ではなく、内の視点が大切。
副 会 長	市民が自分たちの地域資源は何なのかを見出し、地域への愛着の醸成ができる事業が大切だと思う。
平 湯 委 員	以前イベント（計画策定時のワークショップ）に参加した際に、まずは市内の自分たちが楽しむのが大事ではないかな。楽しそうなどころには自然と人は集まって来るという意見で盛り上がった。自己肯定感のような、自分のまちを好きだと思えるか、面白いと思えるか、面白いと思って関わっていただけるかが数字に表せると良い。
会 長	今回、産業振興計画の番号順で説明してもらったが、施策と取り組み内容の数が合っていないところがあると思う。記載がない部分についてどのように審議会で議論したのかの説明も必要であると思う。例えば事業承継、創業支援が同じ施策の中にあるが、似ている部分もあると思う。今やっている施策番号がお互いに関連する番号の記述を縦だけではなく、横の関係も記載できると良い。その発信の仕方の工夫が必要。 連携協定については、武蔵野市全体を街中のキャンパスとして大学と結ぶことで大きな取り組みができるのではないかな。アニメの方でも学生が街中で何かしたいというのがあるかもしれない。協定というのも一つのやり方だと思う。学生にどのようなことをして欲しいなどがお互いになればよい。

(3) その他

資料3について事務局より説明

3 閉会